

# 1. 平成27年度

## 参加チームとチーム目標（ゴールイメージ）



保健学科リプロダクティブヘルス分野  
「たおやかな女性研究者集団になる」



病院第二外科  
「”カエル時間” ※を増やそう！」



大学教育イノベーションセンター  
「関係性の質の向上  
～横のつながりを大事にする～」



病院消化器内科  
「就業上の無駄をなくす！！」

※カエル時間とは、普段からやりたい（やらなければならない）けど、時間が取れずなかなかできない仕事や趣味の時間のこと。

## 課題・アクション・成果（抜粋）

取組を通じて 見えてきた課題	実施した具体的なアクション	成果・気づき・変化
日々の仕事に追われている。精神的な安定を図りたい。	カエル会議をランチミーティングとして毎週定期的に関催し、情報交換を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが取りやすく、決定と初動が早くなった。</li> <li>・ダラダラと会議をしなくなった。</li> </ul>
深夜まで仕事をしている。	朝メールを活用し、しっかりと時間管理を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のメンバーの時間の使い方が参考になった。</li> </ul>
健康と家庭のバランスを取る	家族の行事に積極的に参加するなど、各人が家族のための時間を意識して作った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭が穏やか（健康）だと、仕事も捗り、仕事が捗ると家庭が穏やかになることが分かった。</li> </ul>

検査効率が悪い。看護師も困っている。	検査が重なった時の医師交代可・不可が分かるシステムにした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無駄が減り、回転が速くなった。</li> </ul>
会議がダラダラ長い。	班内会議の開始時間と終了時間を決めた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均 20:00 までかかっていた会議が 18:30 までには終了するようになった。</li> <li>・他部署との会議でも活用し、効率化できた。</li> </ul>
大学院生が実験する時間がない。	数か月ごとのベッドフリー期間を設けることを提案した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から医員交代で実施することが決定した。</li> </ul>
論文がなかなか書けない。	論文を書く曜日と時間を定め、教官が医局に待機し、論文に関する質問を受け付けた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問を受け始めている。今後の定着に期待。</li> </ul>
時間の有効活用ができていない。	それぞれのカエル時間を定義した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のやりたいこと、やらなければならないことが明確になった。</li> </ul>
カエル時間が確保できない、うまく増やせない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝メールにカエル時間を予定として入れた。</li> <li>・当直中の時間を利用した。</li> <li>・通勤や出張の移動時間を利用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余った時間でやろうと思っても難しいが、計画に入れると確保できることが分かった。</li> <li>・論文を書くことが出来た。当直の時、朝メールにカエル時間を設定しておくと思わなきゃと思う。</li> </ul>
突発業務で、自分の時間が取れない。	チーム内の仕事を共有・分担した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの仕事内容を理解することで気配りが生まれた。</li> </ul>